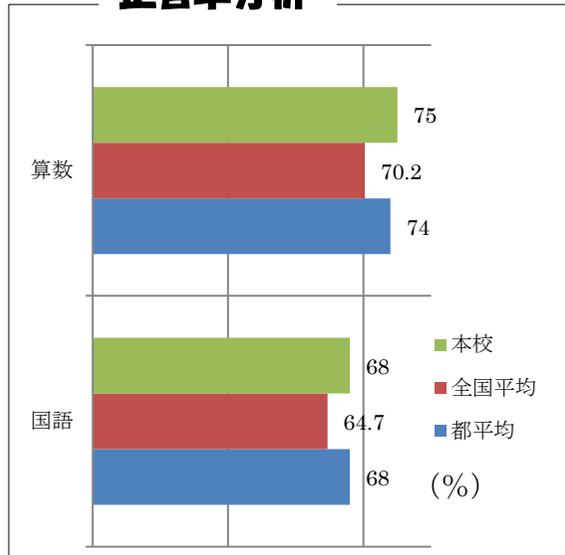


令和3年度全国学力・学習状況調査(6年生)結果の分析について

江戸川区立東葛西小学校

調査問題と分析

正答率分析



観点別正答率

		国語 (%)				算数 (%)						
		知識・技能	話し・聞くこと	書くこと	読むこと	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用		
国語	本校	71	83.5	56.9	55.8	算数	本校	67.6	59.7	75.6	81.2	83.0
	全国	68.3	77.8	60.7	47.2		全国	63.1	57.9	74.8	75.9	76.0
	都	69.9	81.8	62.7	53.5		都	65.4	63.7	77.7	79.8	79.5

〈国語〉

3 二 丸山さんの【文章の下書き】の点線部を【西田さんの話】を用いて詳しく書き直す。
⇒目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができない。

〈算数〉

2 (2) 直角三角形を組み合わせた図形の面積について分かることを選ぶ。
⇒複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができていない。

4 (2) 8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く。
⇒商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができていない。

4 (3) 30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く。
⇒小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できていない。

○全体の傾向

- ・算数において全国と都の正答率を上回っている。
- ・全国、都平均に比べ、無回答率が低い。

○上位層・下位層

- ・本校において、上位層と下位層の開きは少ない傾向にある。しかし、算数において若干の開きが見られる。

○教科の内容

- ・国語は「書くこと」において、全国と都の平均値を下回っている。
 - ・国語の短答式と記述式の問題で正答率が低い。また、無回答率が高い。
 - ・国語は問題の後半になるにつれ、無回答率が高くなっている。
 - ・算数は「図形」「測定」において、都の平均を下回っている。
 - ・算数の記述式の問題で正答率が低い。また、無回答率が高い。
- 制限時間内に問題に取り組めていない。

学 校

○短期的

- ・誤答の多かった問題をやり直したり、類似問題を解いたりする。
- ・漢字ドリルを活用し、定期的に小テストに取り組み、書けない漢字は繰り返し練習させる。
- ・計算ドリルを2回以上繰り返し取り組ませる。

○中・長期的

- ・朝読書で本を継続的に読む習慣を身に付けさせる。
- ・東京ベーシックドリルを活用し、前学年の学習内容の定着を図る。定着度の低い内容に関しては、指導方法を工夫していく。また、学期ごとに校内学力テストを実施し、結果の分析から児童の学力状況の変容を見取り、指導の改善に役立てる。
- ・各学年で毎学期、漢字のまとめテストを行い、漢字の定着を図る。
- ・各学年で、九九テストを行い、基礎学力の定着を図る。
- ・放課後補習の時間を使い、苦手な学習内容を児童が克服できるようにしていく。

家 庭

○日常的な取り組み

- 全国学力・学習状況調査(小6国語・算数)における国の分析結果では、「家庭学習をしている児童ほど国語、算数とも正答率が高い傾向がある」とされている。
- よって各学年における発達段階を考慮した上で、以下の内容の宿題を各学年に共通して取り組ませていく。
- 〈家庭学習の目安〉 学年×10分
- ・漢字練習 1ページ以上
 - ・計算ドリル 1ページ
 - ・その他教科の宿題など